

映画のことと手当り次第

(12) 淀川長治

いま考へると、あのころは町ちゅうの連中がみんな映画ファンだったみたいである。

映画館の切符を買う窓口は昔の銀行のカウンターの白い大理石と同じで、それが銀貨銅貨の出し入れで、すりへつて、ちょうどチャリンとおつりを貰うところが凹んでいるのであつた。「そない押したらあきまへんでエー」ハッピのおつさんが押すな押すな行列を整理している

それでどの映画館も窓口の前に木のさくを作つて行列が一列になつて切符を買う工夫をしていた。大正九年ごろ一九二〇年いまから四十年まえ。

そのころの正月は、私には新聞地と切り離しては考えられない正月のワクワク。キネマ俱楽部、錦座、朝日館の順で見るか、朝日館から、もう一つ松本座を加えて、錦座、キネマ俱楽部の順でみようか、それが楽しみであり、その誘惑は映画館の絵看板から自然と足の向きがきまるのであつた。

ロイドの「新婚旅行」チャップリンの「サンニイサイド」デブの「コック」チャップリンの「勇敢」メーベルの「海水浴」コンクリンの「幸運」ドグラスの「跳ね廻り」なんとシンプルな題名。それが客を呼ぶのは映画館の絵看板の競争。朝日館が有名な看板屋に自慢の絵看板を描かして、そのきれいなこと。錦座はチャップリンとデブとコンクリンとロイドがまるで一つの映画に競演しているような絵看板の派手さ。そこでキネマ俱楽部はぐ

うつとスマートにアメリカ製のポスターを利用する。それがまたこにくい味を出してD・W・グリフィスの監督「東への道」などは、その横文字の Way Down East の文字のスマートさ。それに主演のリリアン・ギッシュが氷河の上に倒れてその氷河がいましも漢布の方へ流れつつあるそのポスターがすごく大きくて西洋くさくてハイカラで。

「えー、パンにキャラメル、おせんにやつはし」これで朝日館のおせんが一番おいしく、キネマ俱楽部はドーナツ、錦座はアンパンがとても今で知るイーストきんが強くてすっぱくってそれがまた個性を持つていて、キネマ俱楽部へ行くとマブイの一番にドーナツを二個買つてから画面に見入つたものである。

そのころの正月は短篇六本くらい。これが一館のプログラムだから、これを三館四館とハシゴすると二十本からの短篇喜劇を一日に見ることになる。それでなおまだ見たかったのだからあきれたものだ。驚くわけもないが正月ともなると説明者(ベンシ君)もふざけて神戸べんになる。デブ君が眠つてゐる。そのデブの寝顔が眠つたままニンマリ笑う。すると説明者が「よんべ福原に行つて、えらい、もててしまへん」。

このデブ君の一派にアル・セント・ジョンといふ共演者がいる。細長い男でデブ同様の人気者である。このアル・セント・ジョンはその喜劇の中でいかなる役名がつ

いていたかは知らないが、神戸ではこの俳優が出ると、セメントが来よった……と説明する。アル・セント・ジョンを略してセメント。これは神戸だけ（あるいは関西か？）のことで、後年東京に移つてこの名を口にしたところ、セメントでは誰にも通じなかつた。

キューストン・コップと呼んだあの滑稽喜劇の何かと、言うと警察署からむらがつてとびだす一連のお巡りたちこれが一台の車に十人くらい盛り上つて走り出すのだが、たいがいその一人が車が走り出したとたん転んで落ちてしまふ。「こぼれたッ」これが関西の説明で人気を受けた。「うわッ、こぼれてもた」。

悪漢のむれが一人の男を取りかこみ、その悪漢の親方が縞のシャツと黒いハンチング、そのヒゲヅラをその一人の男に近づけておどしをかける。そのときは「こら、噛んだらか」。このカンだらか、がまた映画ファンの間で流行。

さらに進んで、殴り倒すのを「ちよつと可愛がつたろか」。さらに進んで「こら、笑ろたろか」。

説明者は映画をさらに陽気にし、観客は無茶苦茶に押しこまれ自分の手か人の手かわからぬ大混乱の中で、画面に御ひいきスターが現われると拍手のうえに口笛を吹きアンパンのから袋をサッとふくらませパッチーンと叩きつぶす。パ一



ル・ホワイト連続大劇「電光石化的侵入者」のその館内の賑やかさ。パール・ホワイトに扮するマージャリイがワーナー・オーランドに扮する怪支那人ウーハンにいましも殺されんとする。「あッ、危い！」そんな瞬間、客席から声がとび出す。

「マージャリイを助けてチョージャーい！」なにがチョージャーいなか解らぬながら、そのとつさのチョージャーいの感覚。どつと笑う客席。すると説明者すかさず「危機一髪！マージャリイの運命いかに？」来週を見てチョージャーい！」

かくて新春の映画館はむせかえる陽気で、まさに時のたつのも忘れたものである。朝かけ出して、全部見終つて館外に出ると、もう夜の電気がアカアカと輝いて……あの正月の新開地が忘れられない。

（映画評論家）

*写真は昭和8年ごろの新開地。本通りもずっと南に下つた芝居小屋の並ぶあたり、道ゆく人も新開地らしく庶民的である。

● Captain Interview No. 8



こんにちわ 船長さん

ルーズベルト号(米客船)
R・G・ウイルソン船長

●きく人 玉奥 章

六甲おろしが海面をはげしくそばだて通り抜ける。寒い。まったく寒い。この突堤にズラリと並んだ土産ものやのおやじさんもおばさんも、ハナ水をすすりながらの商売だ。真赤なネッカチーフで銀髪をくるんだ老婦人が私の傍へきて日本女性の着物と羽織について話をした。羽織がどうもわからないらしくて用途をさかんに聞くので苦しまぎれにコートだといふと、大きくうなず

いて『アイシー、ベリーワンダフル』を繰りかえして満足そう。

アメリカン・プレシデント・ラインのルーズベルト号はこの『こんにちわ船長さん』はじまって以来の豪華船である。大きさは一八、九二一総トン。速力は巡航速度一九ノット。最大二二ノット。乗客は一等船客で四五六名。船内は実に暖房がよくきいていて快適だ。若い金

髪美人は背を大きくあけた艶なドレスで船内の散歩である。キャブテン所用のため午後六時からないとインタビューができない。三時間ばかりのブランクができた。

日曜日だからどうしようもないでの、チーフオフィサーにたのんで船内の案内をしてもらう。カーキ色の半袖シャツ、長ズボンの軽装。愉快な彼はポケットから鍵をしてどんどん気楽にみせてくれる。こども部屋、ショッピングルーム、ローニングと豪華船だけに至れりつくせりの設備だ。スターライトルームにはいると部屋の三方はガラス張りで今一方の壁面には、モザイクの大きな壁画がかかる。その前にピアノ、太鼓、ドラムなどの楽器があり専用のバンドマンが五名乗船して毎夜演奏をするのだ。五色のスポットライトをあびて太平洋の船旅をたのしむダンスパーティ。部屋の名前どおりエトランゼたちは、その名前と音楽とそしてダンスに酔うことだろ。今年のクリスマスはハワイの近くだからこの部屋の外にみえるブールで泳げるでしようとは私たちにとっては嘘のような話。大晦日は食堂を飾りたてて大晩餐会とダンスパーティーでゆく年、くる年を祝うそうだ。その大食堂にゆくと、静かな色彩でゴージャスな雰囲気である。副支配人から多彩なメニューをいただいたが私には画餅の類でありた内容をみては生唾をのむだけだ。キャブテンテーブルからはじめ大小のテーブルがズラリと並び夕食の用意がすでに整っているかにみえた。タキシードに身を固めた紳士と艶やかによそおつた淑女の群像。まったく想像するだけでも平和そのものである。

午後六時、ボーカルが軽やかなチャイムを鳴らして廊下をゆく。いわすと知れた食事の合図だ。この時には上陸していた船客が帰船してきて、タラップは時ならぬにぎわいぶりを呈する。

キャブテン・R・G・ウイルソン (Capt. R. G. Wilson) は堂々たる体躯を濃紺の制服に包んでのお出迎えだったが気さくなことと、底抜けに明るい人柄は好感がもてた。「よくいらしゃいました。船内もうみましたか？」さ

て何からお話をしましようかね？ 年ですか？ (首をすくめて小声で秘密だよといながら) 五十三才。一九二九年十一月から船に乗りはじめ一九四一年にキャブテンになりました。このルーズベルト号は二度目ですよ。よく船はかかりますね。船は大好きですが、船員になつた

動機ね、少しむつかしいね (じつと考へて) ウエル、私は人間が好きだし、旅行はもちろんのことその上船に乗つてると空気が新鮮ですよ」

ヨーロッパは過去の姿で、東洋は今日のものであり明日のものであるというウイルソン船長は日本が好きとう。港ではサンフランシスコ、神戸、横浜、香港がお気に入りらしい。神戸港はちょうど基地のようなもので往復とも立ち寄るため、何回きているか彼自身にもわからぬそうだ。

「神戸港は、ダグボート、パイロット、突堤すべていいね。それに美しい。サービスもいい。すべていいよ。私の家族？ 妻と娘三人。二人はもう結婚して私は七人の孫がありとてもいいおじいさんですよ (誇らしげに)」 ニューオリエンタルホテルのスカイレストランで食べる神戸肉は最高と目をほそめ、カーマランに私は写真が好きだがうまくとつてほしいと注文をだす。また屋外活動家で休暇には夫人と魚つりにゆき時には四十二ボンドの鮭を釣りあげたり、狩猟には雪の日など馬に乗つて十日間の旅にてて鹿や大熊を射止めるという。楽しい語らひは尽きそうにないが、後二時間で出港だ。そろそろ忙しくなる時だ。静かな船内に人のゆききが漸くはげしくなってきた。ダンス音楽が流れてくる。アカアカと輝やく灯火はルーズベルト号を不夜城のようにその姿を闇の中から大きくながちあがらせていた。星が冷たくまたたいていいる。

「若いサーメンにメッセージですか。うーん (しばし冥目すると鋭く) がんばつて、よく働け！ それだけですよ。じゃ、みなさん、またお逢いしましよう。グッドバイ

(提供神戸銀行)

神戸の集いから



三菱重工神戸造船所で、ふうやわりな

「エッソ・バルセロナ」号の命名式

新しい造船方法、二分割建造方法で誕生した、「エッソ・バルセロナ」号は、既に、5月に船の後の部分を進水、8月に前半分を進水しており、新造成了ものいまさら「進水式」もおかしい、頭をひねった三菱重工は、ふうやわりな「命名式」を考えだした。

「命名式」はさる11月30日午前10時から同社神戸造船所第4ドックで行なわれたが、船名はスペイン映画でお馴染のバルセロナだというので、バルセロナ知事アントニオ・イバーンズ・フレヤー氏を特別に招待。進水式の次第とほとんど変わらない「命名式」を行なった。浅野総合同社所長、船主代表ロジャーワーハンが玉串を奉呈、式典を終わって、パナマ国歌（船籍国）アメリカ国歌（船主国）スペイン国歌（船名国）日本国歌（造船国）と4カ国記念歌を吹奏、ロジャーワーハンが命名の言葉と船首に飾られた、くす玉のテープを切った。

「生きるということ」原口ちから

出版記念会のゆかいな集い

「天秤」同人の原口ちから氏の著書「生きるということ」—ある町医者の半生—の出版記念会の来歴一の出版足立巻一（詩人）堀崎保（詩人）「蜘蛛」の君本昌久（詩人）の名氏に医師会の同僚、原口ちから氏の日頃の精進が実ったと喜ぶ同僚のお医者さんや文化関係者で大へん賑やかな集いになった。

とくに出席者のお祝いの言葉にいるんな話が飛び出した。一番の傑作は春木一夫氏（作家）の歌と中西勝氏（画家）のカントリーキンの歌で原口ちから氏の仲人、出席者一同腹をかかえた。かくし芸大会は珍芸相いで会場をわかったが、杜山悠氏（作家）の歌と中西勝氏（画家）のカントリーキンの歌で元康氏（医師）津高和一氏（画家）の踊りはとくに評判がよかった。神妙に祝詞をうけたいた原口ちから氏も遂にたまりかねて「王将」を歌つて激励に応えた。



「進水式」のかわりに行なわれたふうやわりな「命名式」

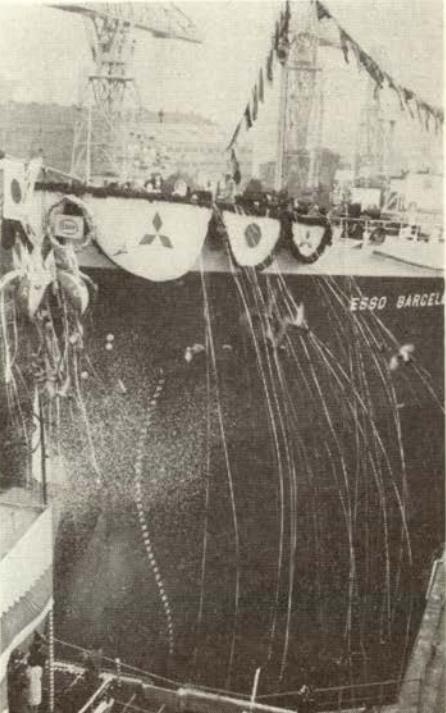
—三菱重工・神戸造船所にて—
右「エッソ・バルセロナ」号

上 玉串を捧げる浅野氏とロジャーワーハン氏

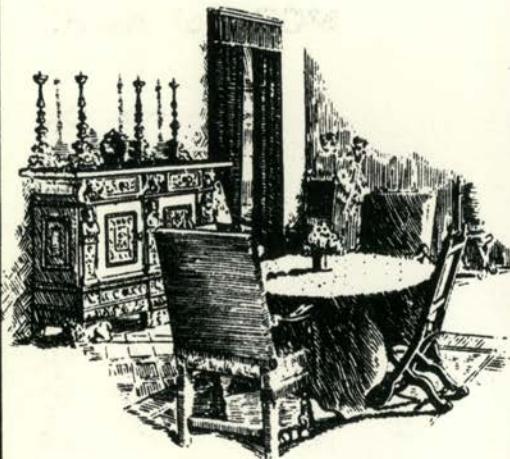
下 命名のことばを贈るロジャーワーハン氏夫人

原口ちから氏の愉快な出版記念会風景

上 下 祝福を受ける原口氏夫妻
医師の同僚や津高氏など



家具・室内装飾・工芸品



頌 春

永田良介商店

大丸前 TEL { 393737
3739

靴の専門店

クロス

トアロード店に舶来品コーナーができました

迎 春



神戸 トア・ロード TEL 330998

代表 391781

大阪 阪神百貨店 TEL (361) 1201



MODE of KOBE

*春を呼ぶ船を訪ねて

アンサンブルの 力クテルコートとドレス

福 富 芳 美

神戸ドレスメーカー女学院院長
大丸顧問デザイナー

神戸の新春は、港にやどる世界の船々が、1965年
午前0時いっせいに“おめでとう”と汽笛の序曲を奏で
るとゆるやかに幕があがります。そして観光船の訪れは
港を活気づけ、海から神戸の春がやってくるのです。
今月はA・P・LのP・ルーズベルト号を訪ねて、神戸
つ子のモードをご紹介します。

新春は、お友達同志のおよばれや、パーティ、結婚式

などのチャーンスが大変多いことだと思いますが、そんな時正式に着られるアンサンブルのカクテルコートとドレスがあると非常に重宝なもの。きものでいえば訪問着にあたります。

布地はシルクか光沢ある化織類の厚手のものを選ばれると華やかな感じです。コートのシルエットは、流行の細つそりしたコートでシャープな女らしさをねらい、ドレスは中途半ばな袖丈にしないで、思いきり短い袖か、袖なしにすれば若々しく、少し長めの手袋をはくとぐつとよそいきのムードが出せます。共布のコートとドレスにすればよけいに上品で、豪華な感じになるでしょう。

★写真のアンサンブルのコートとドレスの説明

上品なサモンブリンクの厚手シルク地を使いました。コートはウエストをダーツでシェーブして、細つそりしたシルエットにまとめ、衿はステンカラーの若々しい感じ、4ツの可愛いボタンがアクセントになっています。ドレスは身頃をバイヤス裁ちにして、柔らかなドレープをつけ、丸いヨークがそのまま袖になるエレガントなデザインです。このドレスの特長は、どの綿もカクテルにふさわしい、シンプルだけれども優雅な女らしさをじませていてことでしょう。また、共布で作られたドレスとコートの組合わせが、さらに豪華さをそえています。

(モデルは福富章子さんです)



早春の風はまだ冷たい。けれどどこか甘い夢と希望がはじけるよう漂っています。

1月の髪は、お正月や新年会の装いのために、軽やかな小鳥のはばたく羽根のようにモダンなアップの髪をデザインしました。若いお嬢さんからミセスにも向く髪で、ショートのかたはヘヤーピースでもアレンジできます。アキセサリーは、若い人は流行のリボンで可愛らしく。30代のかたは

●1月の髪 西野 明

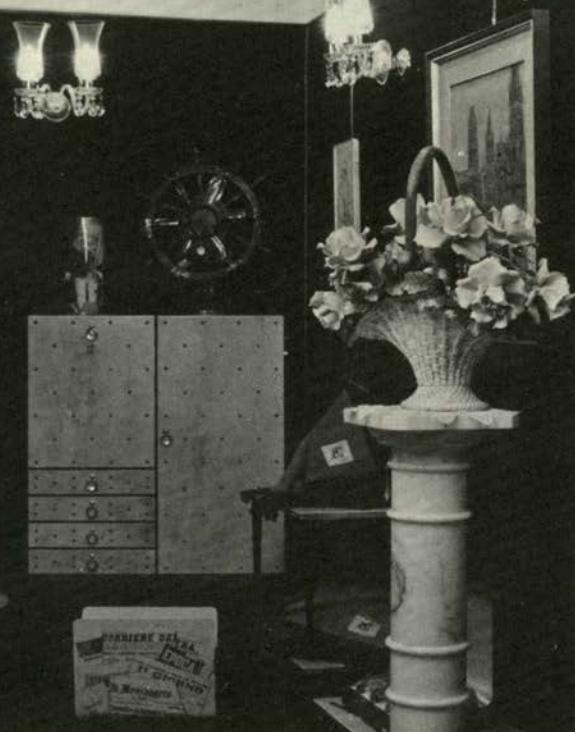
ブローチや造花のアキセサリーが華やかです。パーティだけなら、カトレアの白、ピンク、ふじ色などの生花で飾れば、優雅な、匂うよくな髪に仕上ります。

髪を長持ちさせたいかたは、髪の毛の流れにそつてピンで押さえましょう。形をととのえる時は、手で髪をつまみ、軽く柳をつかってなでつけます。ひたいの美しいかたはフロントをぐつとひきつめても魅力的です（ヘヤー・デザイナー）（美容室あきら）

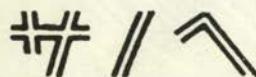


賀 正

本年もどうぞよろしく



写真は2階ショールームの一角です



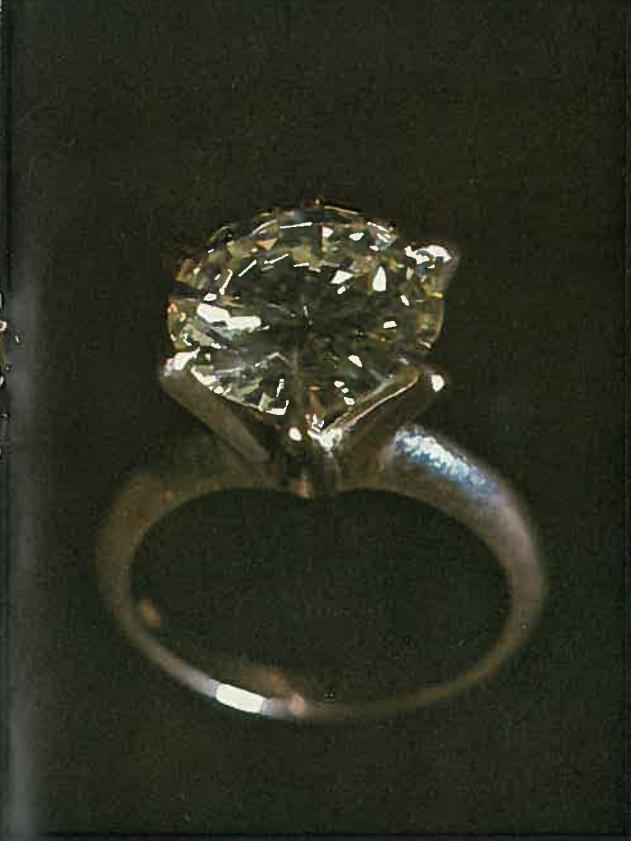
元町2丁目
334707~8

A HAPPY NEW YEAR



婦人帽子
マキシン

神戸・トアロード 東京・銀座3-2
TEL 336711-3 TEL (535) 5041



PM ダイヤモンド指環



PM ブルーサファイア指環

頌 春

ダイヤモンドは5年先に現在の市場価格の3倍になる見通しであるとベルギータイヤモンド原石業界誌が報じています。これによると年2割5分の利益が約束されることになります。

Tajima
宝飾店 タジマ

元町2・TEL 33-0387・2552



PM スタールビー指環



PM エメラルド指環



PM ネコ目石指環



頌 春 ハンドバック
専門の店
ジ ラ サ
元町2 ⑬ 0813

Akira Beauty Shop



美容室

あ き ら 西野 明
電話予約制
三宮本通り TEL ⑬4461・6458

アフリカに音楽の勉強に行きたい貧乏な学生、旅費くりに御協力下さいと、路上にチヨークで英・仏・独三国語で口上を書き、クラリネットをふいてカンバを求めるピエールは今年二十才。未開地のリズムに魅せられた青年である。だが困ったことに、大切な傍役のコブラが好きになれない彼は、一人舞台が型にならないことを知ると、ノミの市で仕入れてきたゴム製のコブラに細いテグス糸を繋ぎ、笛の先に結びつけてコブラ氏にダンスを強いる頭のいい方法を考えついた。こんなユーモアが、パリジャンには気に入られたのか、収益の方は間もなく予定額に達するとうれしそうに言う。その彼の恋人、ジゼルは美術学生で、やはり強い太陽の国アフリカに製作モチーフを探しに行きたいたのだが、彼女の両親が賛成してくれないので、サンジェルマンの大通りで、針金と金属板細工のアーケセサリーを、世界にたたか一つしかない貴女だけのアーケセサリーリーのキヤッヂフレーズをもとに路上に並べ、せつせと貯金を続けていた。涼しい眼をもつたパリッ子で、ピエールと同じ年だそうだ。そんな彼等に暖かい支援をおこなっている仲間たちを成人の日に因んで、お伝えしよう。

さて、彼等の行動圈は、何といつてもカルチエ・ラタンとよばれるセーヌ左岸といえる。ソルボンヌ大を始め大家族を擁する学校がこの地区にあるためか、このあたりの平均年令は、二十才に接近しているといえよう。サンミンシェルの大通りやパンテオングラードでは、本を小脇にかかえて足早に教室に急ぐ学生や、趣味のよいコートに流行のブーツでモードの研究も怠らない女子学生、食事と登校を同時にやっている連中やら、若い人波ですばらしい活気をみせてくれる。アメリカ大陸からやって来た彼、南の島で育った彼女、そして東洋から飛んできた日本人と、ざつと見渡しても十指に余る人種が歩いている。ところで、よく学ぶ代りに、よく遊ぶと云われる彼等にとっても、気になるのは、卒業後の職場のことだが、フランスでも近頃では技術関係の職場が優遇されているのは日本同様だ。しかし、御当人たちに、その言を聞く

★パリ通信⑤ パリのはたち 佐藤昭年



と、日本に比べて、まず生活を第一義とするのか幸福な家庭をもちたいのが希みという学生が非常に多い。例えばこれは、オリエンピックに参加したフランス選手の生活ぶりにも、うかがうことができたように、ナニがナンデモカタネバナラヌ的な要素とは違つたものと解釈すべきだろう。

余暇の過ごし方はどうであろうか。野球もマージャンもバチンコも不幸にして知らない彼等だが、スポーツで盛んなのはサッカー、サイクリングで、その他ドライブを楽しんだり、街のカフェでだべったり、ジューク・ボックスでツィストに興じたりする。ここでもイギリスから侵略したビートルズに人気が集つてゐるが、クラシックの音楽を爱好者する人たちも少くない。

映画、音楽会、オペラ観賞や、ルーヴル美術館や、街のあちこちにある画廊では絶えず一流芸術家の作品に出会うことが可能だし、英語講座に通つたり、多くの機会をもつけれども、案外人気のあるのはダンス・バーといである。こゝ暫く、大舞踏会と称するダンス・バーティがたて続けに催されているが日本同様学生バーなどは、入場するだけで踊ることなど、余程、P・R下手で運のよくない主催者の会でない限り不可能に近い。

そこで必要条件から、アフリカからやつてきた盆踊りのようなりズム・ダンスが歓迎されるわけだが、過日行なわれたバーティで突如としてオリンピック音頭がかなり、会場に居合せた日本人学生が次々発見されて、我流即製の振付で、日本流ダンスを要求する外国人学生の希望に応え冷汁をかいだということも聞いた。

若い世代の日本人もオリエンピックが拍車をかけて一層上つたが、日本理解の資料が週刊誌、新聞によるものが多く、そのため断片的な知識になり、ハラキリと日本人をすぐ結びつけたり、イメージがどうもはつきりしないようだ。正確な日本紹介をもつと強力に推進しなくてはと、素朴な願いをもつ今日此頃だ。理解しようと待ちかまえている世代がいるのだから、あとはP・R次第といえるのだが。

(装飾美術部門学生・在パリ)

ながい夜が終り
いま
薄明のなかに
うかびでる
海と船と町と
こうして
きょうも夜明けに
ふたたび
希望がよみがえる

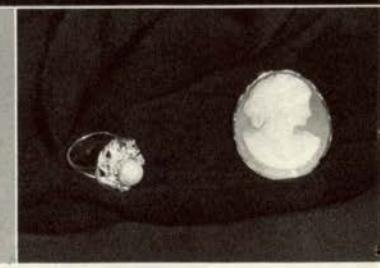


舶来服飾
マルエス
元町通3丁目 ③6541

舶来雑貨とステッキの店
ステッキ オカダ
三宮生田筋 ③1198

あらゆる電気製品の店
元町電機
元町通6丁目 ④3701~5

紳士シャツ
大和屋のシャツ
三宮センター街 ③6956



紳士洋品の店

サ カ イ

元町通 2 丁目 ③37885

玩 具

カ メ ヤ

元町通 3 丁目 ③30090
三宮センター街 ③34969

男子洋品の店

フ ナ キ ャ

元町通 3 丁目 ③3617

FASHION ACCESSORY

AKIRA

三宮センター街 ③34895

春装

元旦

美しさを創る

マダガスカル

ベージュワニ皮ハンドバッグ
(イタリア)
¥ 200,000.-

ベルベットプリント
(フランス)
4.0m ¥ 32,000.-

スウェード・ツーピース
(オーストリア)
¥ 60,000.-

ワイン皮ハンドバッグ
(イタリア)
¥ 65,000.-

ジャージ・プリント
(イギリス)
スーツ分 ¥ 14,000.-



Variety of Life No. 11

・暮らしのバラエティ

神戸の婦人服

ハンガリーのピンクッション
￥290円～から

ここ神戸はミナト街。

日本国中でどこよりも早く文明開化の波が押し寄せ、人々もいち早くそれに馴染んでいった街でもあります。当時の神戸の女性にとって、目新らしい“洋服”を着ることが即ちハイカラ趣味であり、あちら風の生活をすることに大きな憧れをもつたものです。日本中で一番早く洋服を取り入れたと考えられる神戸の街に、30数年の店歴をもつトア・ロードの舶来婦人服飾専門の店「エスター・ニュートン」こそ、洋服の歴史と共に歩んできた数少ない店といえるでしょう。

そこで今月は「エスター・ニュートン」に店主のエスター・フク・ニュートン夫人をお訪ねし、お話を伺いました。

*スタンプの着物、なぜ毎日着ないのか

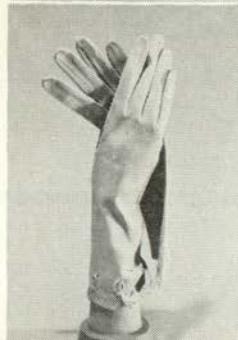
「わたくしが、当時居留地で服地の輸入商をやつておりました主人に相談して、今の店を出してもらったのは昭和の初め、そう今から33年以上も前のことでした。場所も現在の位置より山手で、東京銀行のお隣りでした。子供もなく、体もあまり丈夫でなかつたわたくしには婦人服飾の店「エスター・ニュートン」は生活の張り合いといえました。舶来生地については、主人の仕事からいろいろ学び、知識は豊富でしたけど、商売の方は全くはじめてで素人だったわけです。

亡くなった夫は生糸のロンドンっ子で、日本人の妻であるわたくしにも、和服より洋服の方を着せたがつたものです。でも何故か日本の礼服である紋付がスタンプに入っていた風で「スタンプ（紋付の紋がスタンプに見えたらしいのです）」のきもの、どうして毎日着ないのか?」なんてけげんそうに問うのには、さすがに英國人らしいユーモアだと感心したり困りたりしました。また夫も他の外国人の方々と同様に、日本の女性が、年に一度か二度しか用いないような美しい晴れ着などを大事そうにタンスの奥深くしまっておくという風習を理解できず実用的でないのにと不思議がつておりました。ほんと

うにわたくしもタンスの肥にする着物を沢山作るよりも活動的で実用本位の洋服の方が好きでしたので、早くから愛用していました。」

*ダンス大流行の華やかなりし頃

「昭和の初めといえば、のどかで平和な良い時代でした。ダンスが日本中を風靡していました、神戸でもそれはそれは盛んでした。いわゆる上流社会の社交のひとつとして、医師、弁護士のグループという風に、各グループ毎にオリエンタルホテルや宝塚ホテルでショット、パーティを開いたものでした。また外国船が入るとわたくし達はK.R.&A.C.（外人クラブ）へ船員達を招き、返礼としてわたくし達が船へ招待されるということもよくあ



(写真上) 踊るスペイン人形
¥ 2,500
(写真中) フランス製エラスチック長手袋
¥ 2,600
(写真下) ユーゴ・ラスピラスコ
¥ 2,000より

によります。」

*流行の先端を行き、しかも流行に左右されない

りました。若い女性はその頃流行のすその長いイブニングドレスやカクテルドレスでそのような華やかな場所に出かけるのですが、わたくしの店でもよく作らせていました。はじめて洋服を着るという方には何しろ下着のつけ方からお教えしなければならず、愉快なエピソードもいっぱいあります。服地の選択、お仕立、帽子から靴にいたるまであらゆるアクセサリーのご相談もお引き受けしました。」

*母娘二代にわたるお得意様

「その頃まだ20代で、花嫁衣裳のお支度をさせていたいたい方のお嬢さんが、もうそのお年になられて、母娘そろって当店で花嫁衣裳やその他の服を作らせていただいだということは珍らしいことではないのです。そういう30年以上、店はじまって以来の長いお客様の信頼によって「エスター・ニュートン」は現在あるのだと感

謝しています。近頃は国産品も研究され、品数も豊富になり品質も良くなつたとは申しますが、ウールなどはやはり本場の英國、フランスなどのもので作ってご愛用になりますとその違いがお分りになると思います。お客様のお話しでは少々高くついても舶来生地でニュートン仕立てのものはいくら着ても着くずれしない、とか、飽きがこないとかお賞めいただいております。たしかにうちの店の縫製技術は獨得でもあり誇りに思つておりますが、洋服生活をたのしむのに二通りあることは確かに上質のものでなくとも数多く作ろうという行き方と、最上等のものを数少く大切に長持ちさせるという行き方です。どちらを好まれるかはみなさんのご趣味

身に合っているというのも定評があります。洋服の歴史と共に学んできたニュートンは、これからもニュートンを愛して下さるお客様と共に進んでゆくのだと思います。世界はせまくなりました。今日、エスター・ニュートンの服を召して、明日、パリの街を歩かれる時代です。常に世界のモードの一步前を歩むべく今後とも努力してセンスを養つて行くつもりです。」



あけまして
おめでとう
ございます

’65



フランス菓子
セリザワ

三宮センター街 TEL 5481-3

芦屋店・サンドウイッчパーラー
そごう店・須磨店・大阪店



紳士服飾・婦人服飾

セリザワ

紳士服飾・大丸前橋店 3900

婦人服飾・大丸前橋店 505

センターパーク店 4624

姫路やまとやしき店 2221

A HAPPY
NEW YEAR



アルモンド

本店 神戸市生田区元町通2の43
直売所 神戸大丸・新聞会館秀品店
本店TEL 332203



きものと細貨

神戸
東京

新橋店	/	東	西
/	TEL	店	店
小松	TEL	TEL	TEL
ストア	(572) (571)	3333	3333
地階	0886	0886	0886
(代)	5151	5151	5151
	7	7	9 (代)



おんざら庵